



森のなかま

2024年 9月号

NO. 195 (継続340号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

「やどりき事業部特別企画」 2024年度第1回『やどりきの森へ行こう!』 【緑したたる森で癒やし体験：林道歩きながらセラピー&リラックス】

日時：令和6年6月1日（土） 9：30～14：30 晴れ
場所：やどりき水源林
講師：L若林⑦、久慈⑩、久次米⑩、大森⑩、藤井敏⑭、真貝⑪
参加者：23名

前日までの台風接近と梅雨前線による風雨があり、当日開催ができるか心配な状況でしたが、開催日はすっきりと晴れて今年度1回目の『やどりきの森へ行こう 緑したたる森で癒やし体験』が開催されました。

参加者は23名。3班に分かれ、体調チェックと準備体操をしてプログラムのスタートです。午前のプログラムは森の中を散策しながら、ハンモック、川の水の中の音を聴く『木伝導』、滝郷の滝、呼吸法、森の中で寝転がる『樹冠の揺らぎ』です。たっぷり2時間以上かけて、森の中でゆったり過ごせるように設定しました。

参加者様は水辺で音を探すことに夢中になったり、風の音に耳を傾けたり、靴を脱いで川に入り水の冷たさを楽しまれたり、森の中で横たわりただただ心地よく寝てみたりと思いに過ごされていました。また、散策中にあくびが出てしまうくらいリラックスしていただけの方もいらっしゃいました。

アンケートには「新しい山の過ごし方を体験できて楽しかった」「森林に癒やされた」「山に来て寝ることは少ないのでとても気持ち良かったです」などの感想をいただきました。



昼食後のプログラムは丸太切りと、『森カフェ』と称して木々に囲まれた中でハーブティーを飲みながらやどりき水源林の樹々たちを見つめゆっくり過ごしました。丸太切りは皆さんがんばって切り落としていました。切った丸太はコースターのようにする方やサンプルを参考に置物を作れる方もおり今日のお土産として喜んでいただきました。



アンケートにも「満足です」「友人に紹介します」「メンバーの方々とのランチの時間のおしゃべりも楽しかった」などありがたいコメントをいただきました。

「特別企画・やどりきの森へ行こう!」はこのあと2回開催予定です。これまでやどりき水源林に行ったことのない方も、リピータの方も楽しいテーマを設けて我々インストラクターが皆様をお待ちしております。(記・写真 若林 良子⑦)



【森林技術部会主催】 下刈り研修会

日時：令和6年6月16日(日) 9:30~15:30 小雨のち曇り

場所：南足柄市大雄町 花咲く里山

講師：斉藤⑬、森本⑰、統括石井⑮

参加者：滝澤⑤、大橋⑪、江上⑬、岩田⑭、大見⑮、高谷⑰、野口⑰、広浜⑰、三好⑰

下刈りはNWや県民参加の森づくり活動でも頻度が高い身近な作業ですが、常に刃を露出しているため一層の安全配慮が必要です。本研修は、実践を通して所作を振り返り意見交換することで、今後の指導に生かす絶好の機会となりました。

研修場所の里山は、県道を一步脇に外れ薄暗い市道を抜けると一変して明るい谷戸が現れ、流れる水音が癒しの時間を演出してくれます。今回、14期、15期と繋がりのあるお宅の所有地の一画をお借りしました。



まず全員で今日の目的を擦り合わせ、次に班毎に日頃気になっていた作業配置の指示やマニュアルと作業とのギャップ等を共有後、刈り始めました。所定の位置決めはリードオフして指示する・濡れた斜面で安定した姿勢を保持する為にスタンスを広めにとる・長時間作業でも腕の疲労を軽減するため、腰からの始動が大切・弧状に刈る場合と手前引きを茎の太さや量に合わせて使い分ける・隣との距離を測り三遊間を補完し合いながら刈り進む・時折シャープナーで切れを戻す、等を試行錯誤し、順調に計画エリアの作業を完遂しました。

反省会では、安全第一の視点で、足元の整理整頓の必要性・雨で滑る場合を考慮した作業姿勢・刃を研ぐ際の留意点を復習しました。気になるハチ刺され予防としては、危うき場所では強く突いて様子を見ること、蛇にあったら静かに退散する（特にマムシは逃げない）。ポイズンリムーバーの常備の必要性も確認しました。

灌木も多く混在しており皆伐して良いとの指示でしたが、貴重なものは提案しちょっと残したりしました。作業後は畷にかかった猪の解体を見学できるサプライズがあり、経験談を交えながらここの暮らしを垣間見る事が出来ました。帰る頃には澄んだ空と陽射しが戻り、田圃のオタマジャクシを皆で覗きこみ緑眩い風景を後に解散しました。この寄稿中も、刈る際に広がった山椒の香りが鼻に戻ってきます。

(記 広浜 哲郎⑰、写真 石井 裕⑮)

自然観察部会活動報告 夏の探鳥会（研修会）

日時：令和6年6月16日(日) 9:40~14:00 曇り~晴れ

場所：早戸川林道（宮ヶ瀬ダム）

講師：河西⑮

参加者：菊地①、大原⑬、松石⑬、牧石⑭、石垣⑮、大谷⑰、藤田⑰

開催場所の早戸川林道は、東丹沢の宮ヶ瀬湖に沿っています。ゲートが閉められ、一般車両（二輪車及び自転車を含む）が通行止めとなっていて、探鳥マニアに親しまれている散策路です。また、関東でヤマセミが期待できる撮影スポットでもあります。真夏日を覚悟しましたが、天気は曇りのち晴れで、青く澄み渡った空に心地よい風も

吹き、絶好のバードウォッチング日和に恵まれました。

講師の河西さん及び参加者には前日の会の総会に続く連荘の活動となりましたが、野鳥との出逢いに、期待に胸を膨らませての参加です。オリエンテーションを終え、観察を開始しました。早速、繁殖で渡ってきた夏鳥のキビタキの鳴き声が聞こえました。‘森の歌姫’と呼びたくなるほどの歌の名手です。姿を見たいものだと思いを進めました。

ヤブサメ、ウグイス、アオゲラ、コジュケイの鳴き声が聞けました。また、メジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリが姿を見せてくれました。



なにやら宮ヶ瀬湖が騒がしいので、そちらに目をやると、対岸にカワウのコロニーを見つけました。雑木一本が、まるでタワーマンションのようにカワウの巣となっていて、カワウで一杯でした。湖で狩りをするもの、羽を広げて天日干しをしている様子が観察できました。



金沢橋で予定通り昼食となりましたが、これという出逢いが無いので、午後に期待して、林道を折り返したところです。トビの飛翔を見た後、足を進める

と、夏鳥のオオルリが林道を横切りました。日差しが出てきたせいでしょうか、夏鳥のサンコウチョウ、キビタキが盛んに鳴いています。そして、キセキレイの若鳥も林道に姿を見せました。

ゲートにそろそろ近づいた時でした。キビタキが盛んに鳴くので、そちらに目をやると、キビタキが雑木林の枝に停まったり、目の前を行ったり来たりしています。まだ人に慣れていない若鳥なのでしょうか、しばらくの間、私たちの眼を楽しませてくれました。特に正面から見た時の鮮やかな黄色が印象に残りました。そういえば、今日は、父の日だったと思い出し、父の日の嬉しいプレゼントをもらった気分でした。

最期に鳥あわせを行い、合計 20 種（外来種 2 種含む）の野鳥を確認し、予定通り探鳥会を終えたところです。

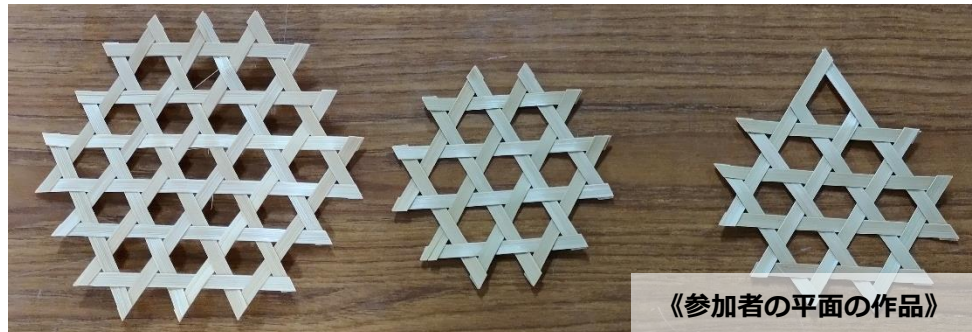
ヤマセミ、特徴ある声で盛んに鳴いていたサンコウチョウとの出逢いは、おあずけとなりましたが、皆さん充実した研修会になったことと思います。

講師の河西さんが、下見で、マタタビに垂れ下がったモリアオガエルの卵や、所々、草木の観察ポイントもおさえてあったので、探鳥だけでなく、自然観察会でもあり、少人数で、和気あいあいとした雰囲気での交流の場となりました。（記 大原 正志[㊤]、写真 河西 静夫[㊤]）



<会員コラム> 竹細工教室初級編

5月11日(土)12:15~6:00 大和市泉の森しらかしの家 1F 多目的ルームで竹細工教室が行われた。以前の教室の参加メンバーからの「“六つ目編み”に編んでいくのが難しい」との感想を受け、まずは平面の六つ目編みのアイテムを第一優先で取り組んで、マスターできればさらに大きいもの、次は花かごに立ち上げて編んでいくものと順次トライしてもらった。企画意図としては、竹林整備活動で発生する竹林内残材を有効活用し、普段の生活の中に取り込みたいという事で、二年前から森林文化部会と取り組んでいる活動の一環である。ネットワーク活動の竹林整備活動の追加イベントを想定して、竹細工の楽しさを広める人の育成を狙いとして教室を開いた次第である。



《参加者の平面の作品》

竹細工では、竹ひごを作るのが難しく厚みが一定しないと良い製品ができないので竹ひご作りは師匠の仕事、竹を編む

のは弟子の仕事とされている。(渋沢“竹のかわせ”店主談)そこで、竹ひごは仕入れたものを用い、六つ目編みの作品作りを行った。

まず竹ひごは水で濡らして柔らかくし、編み方の図解をラミネートした台座を用意し、その上で順番通りに編んでいった。最初は、小さいもの、次にサイズの大きいものを製作した。

竹ひごの外周の余分な部分はラジペンでカットした後、今回は平面の作品の上から木工ボンドを水で溶いたものをハケ塗りして乾燥し網目を固定した。

平面での作品は出来たので、次は立体的に編みながら立ち上げる作品に挑戦。翌日が母の日(五月第二日曜日)という事もあり、花かごにもトライした。出来上がりも上々だった。



《参加者の花かご作品_左と中央は蛇籠、右はさらに大きい花籠》



《活動の様子》

休憩時には、六つ目編みのできる作品の紹介も実施。短時間では編み上げるのは難しいが、同じような編み方の延長で、下図の様なものも製作は可能である。



《紹介作品_平面で拡大したもの、ペットボトルキーパー、ランプシェード他》



休憩時には、六つ目編みのできる作品の紹介も実施。短時間では編み上げるのは難しいが、同じような編み方の延長で、下図の様なものも製作は可能である。

参加者の感想として、「平面はマスターできた。小さなモノはネットワークでもできそう。」
「ボンドは無くても良いのではないか?」「立ち上げはやはり難しい」「立ち上げる時のパター

ーンを見極めたい」との感想があった。今回の成果としては、少数メンバーとはいえ平面の六つ目編をマスターしてもらったことが第一の成果であった。

2回目_6月7日(金)18:00~21:00 藤沢市市民活動推進センターにおいて、2度目の竹細工教室を同じテーマで行った。前回同様に、水で濡らした竹ひごをラミネートした台座の上で六つ目に編み込んでいった。前回とは違う形状での仕上がりとなった。その後、立ち上げ花かごにも挑戦。今回も上々の出来上がりとなった。

参加者の感想は、「完成した喜びはひとしおでした。」「難しかったけど、楽しかった。」「形が出来上がっていくのが楽しく嬉しいですね。」「ペットボトルキーパーにもチャレンジしたい。」「インストラクターとして竹の技術を持つのには良い機会だ。」との感想が聞かれた。

※参加者：5/11(土) ⑰小国、⑱伊東

6/7(金) ⑰大谷、⑰内田、⑳斉藤(夏)、①菊地、⑤久保田、⑤石垣

※2年間に渡り、竹細工教室の招待講師を受けて頂いた“竹のかわせ”川瀬隆氏が4月に亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。氏の技術の継承が少しでもできれば幸いです。

(記 真貝 勝①、写真 末原 興一⑮、真貝 勝①)



《2回目_参加者の作品》

活動短信

今回の掲載はR6年6月15日からR6年7月6日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

9月(長月)(旧暦8月葉月)の
二十四節気と雑節、鳥こよみ

二十四節気 白露9/7 秋分9/22, 雑節 彼岸 9/19

残暑の日々にも赤とんぼが飛び、早朝の草露が白く光って見えるようになります。朝夕の涼しさに本格的な秋到来が感じられる季節です。

鳥こよみ: 今月号掲載記事でお目見えしたキビタキは夏鳥の代表選手。美しい容姿と歌声で多くのファンを魅了しています。モノマネも上手で、ツクツクボウシやコジュケイなど多彩なレパートリーを披露してくれます。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。できれば Word、メール直筆でも OK。Excel は不可。写真もあれば添付ください(紙面の都合上3枚以内でお願いします)。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財 (公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

ス 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、本文を400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名、写真撮影者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)_m

◆ 緑のレンジャー講習会 (第2回)

日 令和6年6月15日(土) 10:00~12:00 晴れ

場 鎌倉中央公園(神奈川県鎌倉市山崎)

参 鎌倉市緑のレンジャー 18名(男性9人、女性9人)

ス 公益財団法人 鎌倉市公園協会 千田様、西野様

イ L安部⑤、鈴木⑰

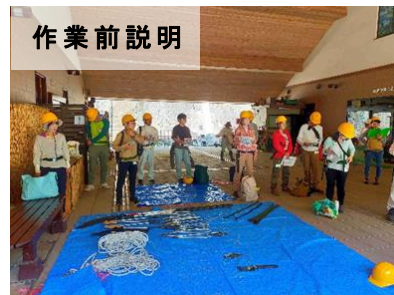
鎌倉市主催 緑のレンジャー講習会 全9回中第2回
緑の作業「道具の使い方」講習第1回の座学に続いて初めての屋外実習で、公園内作業で使用する予定の道具一式(鋸、剪定鋸、刈込鋸、高枝鋸、太枝鋸、ロープ)の使い方の講習を午前2時間で行った。それほど蒸し暑くない晴天のもと、参加者18人を2班に分けて一人の講師に9人の生徒という構成で行った。

当日は鎌倉中央公園の3方斜面に囲まれた中央平坦地を2方面に分けて、すべての道具を用いて実際の作業をしながら下草狩りを行った。高枝鋸は、カシノキの細い

枝を各人2本ずつ切断する事で体験いただき、ロープの使用法は、太い枝ではなかったため、口頭での説明に留めた。刃物の切れ味が想定より良いことを実践で感じていただき、初回ということもあり改めて安全に対する注意を念押しした。

作業後半は下草刈りが主であったが、綺麗に刈りあがった現場を振り返り、ひと汗流してみな満足げな表情であった。

道具のメンテナンスと片付けにも充分時間を割き、丁寧に講習した。比較的小規模なフィールドにも拘らず、これまでの活動では見慣れない道具もあり、広葉樹林の保全には多様な道具が必要であることも感じた。(記・写真 鈴木 秀明⑰)



作業前説明

◆ 県民参加の森林づくり活動 下刈り

日 令和6年6月19日(水) 9:00~16:00 晴れ

場 弘法山公園(秦野市曾屋)

参 参加者 47名(大人)

市 秦野市森林ふれあい課 川上様

財 倉野様 南橋様・藤本様

看 佃様

ス 神奈川県森林組合連合会様

イ L黒川⑭、佐藤⑤、滝澤⑤、鈴木⑦、真貝⑪、

上宮田⑪、西出⑫、大原⑬、水野⑭、小林⑯、兵頭⑰

本日の下草刈りは令和5年度秦野市植樹祭で植樹した弘法山・馬場道斜面植樹エリアでの活動です。駐車場からセラピーロード坂道を登り馬場道を歩き、ミニ登山しながら、オリエンテーションの広場へ到着。

一汗かいた後は表丹沢と富士の景観、植栽地では紫陽花・ホタルブクロと初夏の彩りも愉しめました。作業エリアはオニドコロやヤマノイモの蔓に覆われ、茅場の斜面で足を取られがちになるため、足元を注意しながら丁寧に作業を進めることを共有し、こまめな水分補給と休憩の声掛けをしながら安全に作業が進められました。



刈り払いのめどがついた後は植栽木へのネット巻も行いました。広場へ戻り閉会后希望者はバスでクリーンセンターへ移動し富士山の湯入浴(希望者)・昼食を摂り、13時30分~クリーンセンター会議室において秦野市内の森林・里山で活動されている団体による

発表・ボランティア交流会が開催され40名ほどが参加されました。

「NPO 法人自然塾丹沢ドン会」・「イオン東大里山ラボ」・「東海大学教養学部藤吉研究所」「くずはの家ボランティアの会」の代表者の方々の発表から、日頃の活発な活動の様子が伺えみなさん大変感心され名刺交換も行っておりました。怪我・ヒヤリハットなく盛りだくさんな活動の一日となりました。(記・写真 上宮田 幸恵⑪)

◆ 横浜市市立洋光台第四小学校

「水源の森を守るための人々の努力を知ろう」

日 令和6年6月19日(水) 9:30~12:30 晴れ

場 愛川ふれあいの村

参 51名(子ども51名)

財 古舘様

イ L内野⑨、松本⑪、松石⑬、石垣⑮、森本⑰、田島⑰

本活動は、晴天であれば長竹継承分収林で横浜市立洋光台第四小学校の5年生が伐倒の体験をする予定でした。しかし前日の大雨で分収林での活動は中止となり愛川ふれあいの村での活動に変更となりました。

愛川ふれあいの村多目的ホールではじまりの会の後に4班に分かれ、各班にインストラクターが1名(2名の班も)つき、森林講話を約30分おこないました。その後多



目的ホールを出ます。外は快晴でとても蒸し暑い日でしたが、日陰のベンチ近くのナツツバキの樹皮を触ってもらおうとひんやり。樹皮が薄く道管が表面に近いため一年中冷たい木だと説明するとさらに多くの子どもたちが樹皮に触れてきて涼しさを実感していました。

続いて広場でスギとカツラの丸太切り体験です。急遽サプライズで加えたので、全員が体験できず、切れなかった子どもたちはとても残念そうでした。

その後はふれあいの村一周の散策です。人工林と天然林の違いがはっきり見る場所があり、森林は一定程度手入れが必要だと説明した森林講話の話を実感してもらいました。そのほか針状葉の違いがあるモミ(縦)とスギ(杉)、モウソウチク、ヘビイチゴ、ドクダミなどを説明しました。散策の後半では、サンショウの葉を擦って匂いをかいでみたり、齧歯類の食べ残したオニグルミの実を探したり、イロハモミジの種を高いところから落としてプロペラのように回って落ちることを体験したり(これにより種を遠くに運べる)、ナラ枯れしたため伐採された切り株を見たり、葉の裏の色が夏でも茶色いスダジイを見たりしてあっという間の1時間の散策でした。

植物以外ではサル(5匹)を目撃した子どもがいました。そして雨上がりだったのでヒルが多く発生しており、数人の靴に付着していました。

散策を終えて再度多目的ホールに集合し、終わりの会では代表の男子生徒から、実際の森林を見ることでその保全の大切さを再認識しよい経験ができたとの力強い感想が発表されました。

(記 田島 聖一郎⑰、写真 内野 ミドリ⑨)

◆ J&T環境株式会社人事部様 新入社員研修

日 令和6年6月20日(木) 10:00~14:00 晴れ

場 県立21世紀の森

参 大人19名

県 水源環境保全課 藤原様、黒田様

イ L牧石⑭、上宮田⑪、西岡⑭、石垣⑮

県立21世紀の森でJ&T環境(株)様の新入社員研修を実施しました。活動内容は、午前には平成30年の成長の森で下刈り、午後は内山林道を中心に自然観察を実施。10時~開始予定でしたが、交通渋滞の影響



で約40分到着が遅れたため10:40~活動を開始しました。



参加者19名(スタッフ含む)は神代杉前の広場に集合し、挨拶、準備体操、用具の装着を行い、活動

場所の平成30年の成長の森に移動。成長の森の前にインストラクターより成長の森について説明が行われ、新入社員の皆様に成長の森について理解を深めていただきました。各班に分かれ下刈りの作業方法について説明を行ったのち11:10~作業開始。途中こまめに水分補給・休憩を行い11:45現場での活動を終了し移動開始、用具の整備、用具倉庫へ返却を行い午前の作業を終了しました。

午後は3班に分かれ、内山林道を中心にオリジナルティーあふれる自然観察を行いました。

1班:森林館の周囲を回り、林間広場より相模湾の景色を堪能したのち内山林道に移動し自然観察を実施。2





班：神代杉前の広場より内山林道を移動しながら、自然観察を実施。3班:4つのスタンプをあつめて、プレゼントをもらうスタンプラリーを交えた自然観察を実施し、予定時間の14時に集合、挨拶、記念撮影を行い無事終了しました。

(記・写真 牧石 稔⑭)

◆ アコム株式会社様 アコムの森 (下刈り)

日	令和6年6月22日(土) 10:00-14:30 曇り
場	21世紀の森(南足柄市)
参	16名(大人16名)
県	水源環境保全課 村松様、秋本様
イ	L森本⑰、牧石⑭、野口⑰

梅雨入り直前にピンポイントで快晴となり暑い中で、21世紀の森にて平成30年植樹エリアの下刈り作業の実施となりました。大鎌を使用した下刈り作業は初めてで、特に安全面を中心とした作業手順を丁寧に説明し、作業を開始。気温&湿度が高い中での作業であり、10~15分間隔で水分補給の休憩を取り、休憩中は植物の話(タケニグサ



の黄色い液が服に付着すると洗濯しても落ちないなど)も交えながら、熱中症に注意してゆっくりと作業を進めました。下刈り作業では、植樹したスギの木を傷つけないように、植樹木の周りはノコギリや剪定ばさみで丁寧な下刈り&ツル切りを行っていただき、実施後はスッキリと植樹エリアのスギの木が見渡せる状態となり、参加者の皆さんも達成感を感じていました。

(記・写真 森本 利弘⑰)

◆ アコム株式会社様 アコムの森 (ツル切り)

日	令和6年7月6日(土) 10:00~12:00 晴れ
場	やどりき水源林
参	26名
県	県水源環境保全課 村松様、秋本様
イ	L森本⑰、松本⑪、野牛⑧、稲野辺⑬

アコム(株)様が神奈川県で進める森林保全活動は、「アコムの森」と称して、間伐や枝打ち作業を定期的に行っています。今回、アコム(株)様では初作業となる

「ツル切り」に、同社従業員26名が参加し、オリエンテーション、神奈川県職員の挨拶、森林インストラクターによる当日の作業内容説明や準備体操を行い、3班に分けて活動開始しました。

初めに神奈川県の水源地やダム機能や役割等の説明を行い、森林と水源の重要性を説明。その後、ヘルメット、保護メガネ、ノコギリ、剪定ばさみ等の道具を装着し、約40分歩いて、今回の作業場となる「成長の森」の区域へ到着しました。

各班のインストラクターは、成長の森に関する紹介と作業方法をレクチャーしたのち、参加者は植樹木に巻き付いた「ツル」を丁寧に切り外しました。

活動前は、鬱蒼と薄暗かった場所に光が入り明るくなりました。活動後は、参加者のけがや体調の確認と、作業に使用した道具の手入れを実施しました。今回、道中には、たくさんのヤマビルがおり、噛まれた方も多数いましたが重大な怪我もなく無事に活動を終える事ができました。

同社は9月28日にも活動が計画されており、森林インストラクターは森林や水源に対する意識啓発に継続して協力していきます。

(記・写真 稲野辺 健一⑬、写真 森本 利弘⑰)



やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。

「やどりき水源林ニュース」

8月号は「溪流のある涼しい水源林へようこそ」です！



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ **森のなかま原稿募集** ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子
muneko-sakura@outlook.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫
skasai0618@gmail.com
黒川 敏史
kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小国 一男
ka-oguni@ab.auone-net.jp
河西 静夫
skasai0618@gmail.com

◇ **編集後記** ◇

★ 3年連続でハチに刺されました。今回は、左のこめかみをチクリ。お墓のお掃除でハチの巣を刺激してしまったようです。長袖、長ズボン、長靴、軍手の上に厚手のビニール手袋、首元にタオル、襟足も隠れる帽子といういで立ちでしたが、顔だけ無防備。後日のお墓参りは、ハチ用スプレーとゴーグルも持参しました。自然が豊かなところは、危険もいっぱい。今、怖いのは地震、異常気象、クマ、ハチ…です。(小池む)

★ 森林活動の翌日、洗濯しようと作業着を取り上げると、一匹の小さなコオロギが現れました。マンションなので外部侵入は考えられず、前日私に取りついて来たとしか考えられません。やっかいな生物でなくてやれやれですが、近くの河川敷に持って行き放しました。作業終わりはどうしても気がせきます。忘れ物はもちろん、意図しない「おみやげ」を持ち帰らないように気をつけたいものです。(小国)

★ 先日 朝日新聞に南足柄市立小学校の下駄箱に県産木を使って、木育教育をするという記事がありました。

その中に木の伐採、製材所見学、森ツアーが組まれていて、当会のことは触れていませんでしたが、森ツアーを上宮田さんが企画、インストラクターがガイドをしました。こういったオファーも今後増えてくると思います。(黒川)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。



https://twitter.com/kanagawa_sizuku

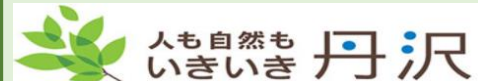


やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255 / FAX：045-412-2300
<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。

<http://www.tanzawasaisei.jp/>

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人： 河西 静夫
広報部： 黒川 敏史、松本 保、
笠原 かずみ、長尾 晴子、
小林 照夫、小国 一男、
小池 宗子
支援： 大原 正志、吉田 郁夫



森のなかま

かながわ森林インストラクターの会 紹介号

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目1番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

みなさんは森林と人をつなぐ「森林インストラクター」をご存知ですか？

森林づくりに興味がある、森の生き物について知りたい、木工やクラフトをやってみたい
森林の大切さを伝えるイベントや講義をして欲しい、森の中でひたすら癒されたい・・・

今すぐアクセス！！



森林(森づくり)

植樹や下草刈り、枝打ち、間伐などの作業指導を行うとともに、森の手入れの意義や森林の機能についての解説を行います。また、豊かな森林づくりのための整備活動を行っています。



自然観察

森を探訪しながら、森林の機能やそこに生息する生き物の生態および人との関わりについて解説し、森の楽しみ方を案内します。県内各地で自然観察会や「森林探訪」を開催しています。



森林文化

森からのめぐみを使った木工・クラフト・紙すきなどの制作指導や中山間地域に培われてきた伝承文化、民俗、自然との共生の知恵を学ぶお手伝いをします。



普及啓発

森林の大切さを県民に伝えるとともに、市町村、学校、企業、団体等の森林・林業に関する各種イベントや学習講習などの開催についての企画や推進の支援をします。



森林癒やし

森の中で五感を使った散策などを通し、森林が人の心や身体に及ぼす働きを体験できます。心身の疲れを癒やし、健康でこころ豊かな生活ができるようお手伝いします。



やどりき事業

会の活動拠点。529ヘクタールのやどりき水源林をベースに森林整備、自然観察、森林癒やし、森林文化などの活動を行っています。水源林を巡る「森の案内人」や「成長の森の案内人」を行っています。

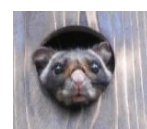
水源林の河原



成長の森の案内



ムササビ



水生生物観察



森の案内



森林での活動やイベントにインストラクターが outgoing 活動の支援をします。

また、企業、団体による森林づくり活動もお手伝いしています(日本触媒 湯河原万葉の森づくり、住友三井オートサービスの森づくり など)。